

この質疑応答録は、2019 年 1 月 30 日(水)に開催したアナリスト、ファンドマネージャー向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器事業について

質問 1

インダストリアル機器部門のコンクリート構造物向け工具の売上高について第 3 四半期累計期間での今期実績と前期実績を教えてください。

回答 1

当第 3 四半期累計期間におけるコンクリート構造物向け工具の国内・海外合計の売上高は 107 億円、前年同期の売上高は 79 億円でした。

質問 2

鉄筋結束機について第 2 四半期の決算説明会では既存ユーザーの追加購入が多かったという説明でしたが、第 3 四半期は新規市場や新規ユーザーへの導入が進んでいる印象を受けました。どのような市場に向けて取り組んでいるのか教えてください。

回答 2

米国ではこれまでのプレキャスト工場を中心とした販売から現場建築市場での販売や土木市場での使用にも広がってきております。欧州ではディーラーの開拓に取り組んでおり、ポーランドなど東欧でも少し売れ始めております。このような、市場の広がりを受けて、米国と欧州の伸び率が引き続き大きくなりました。

質問 3

伸び率を見ると第 3 四半期は米国が特に大きいのですが、これは市場開拓の効果が短期で現れてきているということでしょうか。

回答 3

市場開拓に加えて、米国では鉄・アルミへの追加関税に対し、4 月から機工品の一部製品で値上げを実施しており、売上高の面ではその分が上積みされております。

質問 4

WORLD OF CONCRETE への出展について、規模としては大きいようですが、手ごたえなどはありましたか。御社のブースへの来場者もかなり多かったのでしょうか。

回答 4

WORLD OF CONCRETE へは長年出展しておりますが、昨年が鉄筋結束機「ツインタイア」の発売にあわせての出展、今回は同製品の認知度をさらに高めるために出展しました。海外機工品事業において力を入れている展示会であり、決算説明会資料のスライド 16 に写真を掲示しておりますが、今回はラスベガスの街中にサイネージ広告を掲載し、「鉄筋結束機といえばマックス」と認知していただけるような PR もしました。

ブースへの来場者も多く、人数につきましては、現在、集計中ですが、アンケート結果を次の取引へつなげるため、電子ツールを活用した顧客データの蓄積を行っています。

質問 5

鉄筋結束機の設備投資に関して、来期に向けては現状の生産能力に問題はないのでしょうか。

回答 5

2018 年 6 月本稼動としてタイに消耗品の専用工場を新設し、現在、第 2 弾としてさらに増強投資を行っております。現在、同工場での生産能力は 6 月稼動のころより、約 1.5 倍の生産量になっており、今後も増強投資を行うことで、来年度末までには 2018 年 6 月比 2 倍の生産能力へ高める予定です。

また、国内工場でも機械・消耗品とも増産に対応できるように投資を行っております。発売当初は注文残を抱えましたが、現在は順調に供給しております。

■オフィス機器事業について

質問 6

オートステープラ事業について第 2 四半期の説明会では在庫調整の影響があったということでしたが、第 3 四半期だけで見ると増収となっております。在庫調整の影響は終了されたということでしょうか。

回答 6

取引先によって増減はあるものの、第 2 四半期の在庫調整の影響分は解消されました。

質問 7

オートステープラ事業についてですが、売上高が前年を維持していることに対して、よく健闘していると感じますが、その背景を教えてください。

回答 7

デジタル化によるペーパーレスの進行というのが外部環境としてありますが、オートステープラ事業に大きな影響を与えるのはまだ先ではないかと考えております。この事業は複写機メーカー様に製品を出荷しているビジネスですので、現状は世界の景気変動にあわせて業績が変動すると考えております。

■業績見通しについて

質問 8

今回、通期計画を据え置かれておりますが、現状の計画から引き算し、第 4 四半期を予測しますと営業利益が大幅な減益となってしまうのですが、これは、単純に計画を据え置かれたという認識でよろしいのでしょうか。リスク要因があるということでしょうか。

回答 8

通期計画につきましては 2018 年 10 月 26 日に発表した計画数値を据え置いたものであり、第 4 四半期に向けて、明確なリスク要因が存在するわけではありません。

質問 9

スライド 15 の四半期別海外売上高の推移を見ると、今期に入って 58～59 億円と高水準を維持しているものの、過去 3 四半期は横ばいだとも言えます。来期に向けて鉄筋結束機事業がもう一段成長するという確信度を教えてください。

回答 9

これから来期の事業計画を策定しますので、インダストリアル機器部門の今後の見通しについては来期計画数値と合わせて取組計画も説明させていただきたいと思います。ただ、鉄筋結束機事業の拡大に向け、市場開拓を継続していきたいと考えております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が 1 月 30 日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。